

◀ 港 便 り ▶

思いつくまま「よこはま」(2)

社団法人横浜港振興協会 永 田 隆

私のオフィスから見える景色を写真にとってみました。横浜ベイブリッジ、大さん橋国際客船ターミナル、新港ふ頭、みなとみらい地区など、バルコニーに出ると一望できます。当協会に来られたお客様は、一様に「素晴らしい環境で仕事ができ羨ましいですね」と言っています。本人は見飽きた景色で若干ウンザリはしているのですが、お近くにお越しの節は、是非気軽にお立ち寄りください。お茶を飲みながら景色を堪能していただければと思います。



(新港ふ頭から、みなとみらい地区方面)

真正面に見えます「大さん橋国際客船ターミナル」は、サッカーのW杯の決勝戦が横浜で行われた2002年にリニューアルオープンしました。国際デザインコンペにより世界41か国から660作品の応募があり、最優秀には、イギリス在住の2名の建築家の作品が選ばれました。斬新的なデザインで、建築関係者からは高い評価を得ていますが、客船ターミナルとしての機能性は、デザインに負けている

ような気がします。



(横浜ベイブリッジ方面)

大さん橋の屋上は24時間開放の広場で、全面にウッドデッキが貼られ、天然芝の緑地もあります。



(大さん橋国際客船ターミナル方面)

ベイブリッジからみなとみらい地区まで360度の眺望に恵まれている屋上広場の愛称を、平成18年に公募しました。約4,000件の応募の中から選ばれたのが、「くじらのせな

か」という愛称です。『屋上広場の特徴をよく表し、「海に浮かぶ雄大なくじら」をイメージさせ、また、子供達に親しみやすく、わかりやすく、かつユニーク』というのが選定理由です。この愛称を聞くと、2階の出入国ロビーに入ったときに、薄暗さから鯨のおなかの中にいるような印象を持つのが私だけではない気がします。最近では、土日に行われるコンサートを「鯨のおなかコンサート」と称しています。

また、屋上の天然芝には「ウィンターフィールド」という品種が採用されています。

芝の選定に当たっては、赤レンガパークで6～7種類の品種を試験的に植え、最も結果のよかったのが「ウィンターフィールド」という品種だったそうです。この「ウィンターフィールド」は、コウライシバの一品種「筑波系」にガンマ線を照射して、冬でも緑の葉をつけたままの突然変異体を見つけ出し、その中から最もすぐれた特性を持つものを選んで育成したもので、1996年に品種登録され、1998年、港の見える丘公園に最初に採用されています。こうして選ばれた芝も、冬場に外国から客船で来るお客さんには、「青くない

のは芝ではない」と言われてしまうのは、少し寂しい気がします。

大さん橋の最大の特徴が、屋上や2階の床材に使われている、ブラジルの国樹でもある、アマゾン川流域を原産地とする「イペ」という材料です。

ウッドデッキの材料の中でも、耐久性や防虫性、防腐性、強度などの点で優れた品質を持っています。また、非常に重い材料で、約1.1の比重があるため、水に沈んでしまいます。板の厚さは、屋内は20ミリ、外部一般部は30ミリ、外部車両（緊急車両等）通行部は45ミリになっています。屋上の足元に、車止めとして直線状に小さな円柱が並んでいます。それを境として板の厚みが違うことを確かめてください。ちなみに、大さん橋で使われたイペの量は、日本で使用される一年分に当たるとか。また、床材が木だけにトゲには気をつけなければなりません。この夏、タレントの「上地雄輔」のイベントが行われた際に、熱中症患者の収容のために緊急車両が屋上に何台も上って行くのを見たときは、板の強さを改めて実感しました。

